

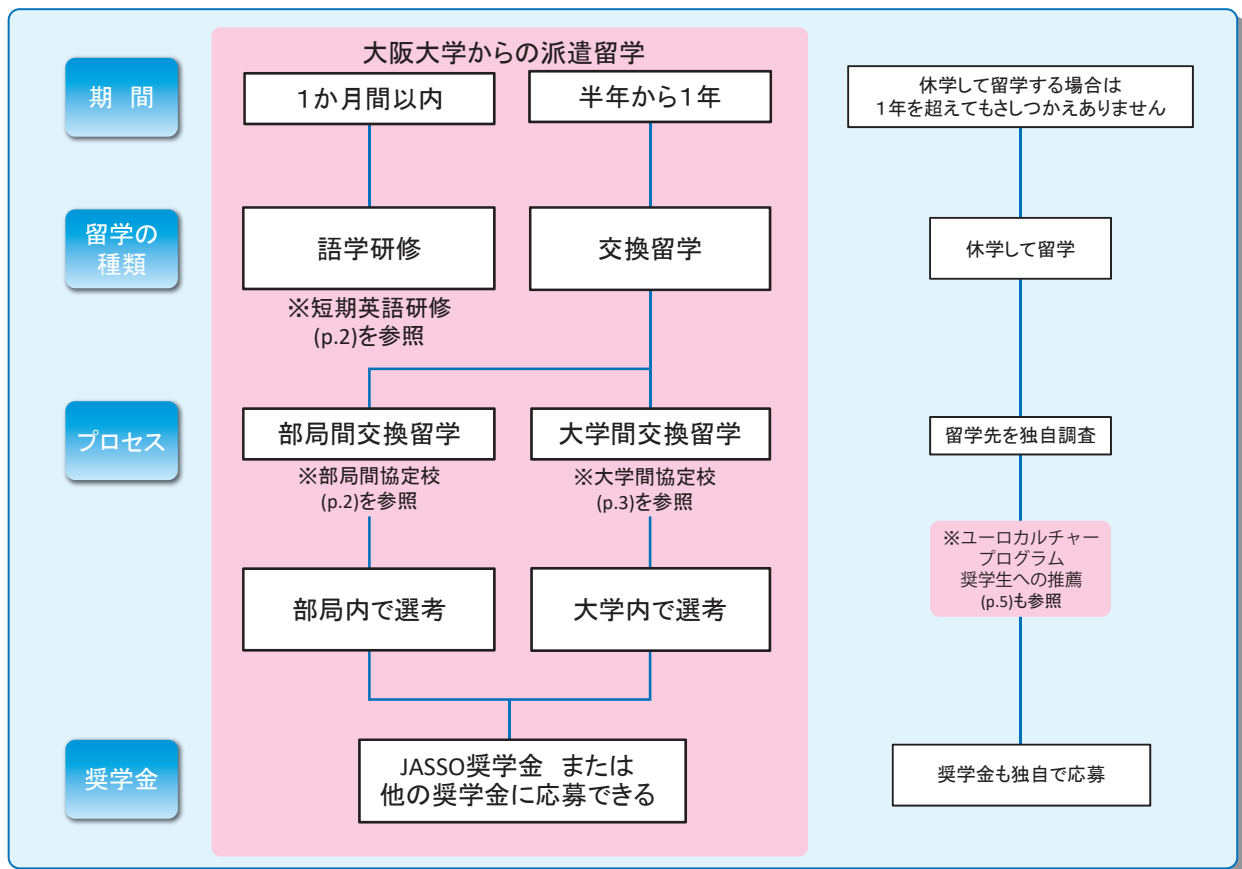


## 留学のチャンスを活用しましょう！

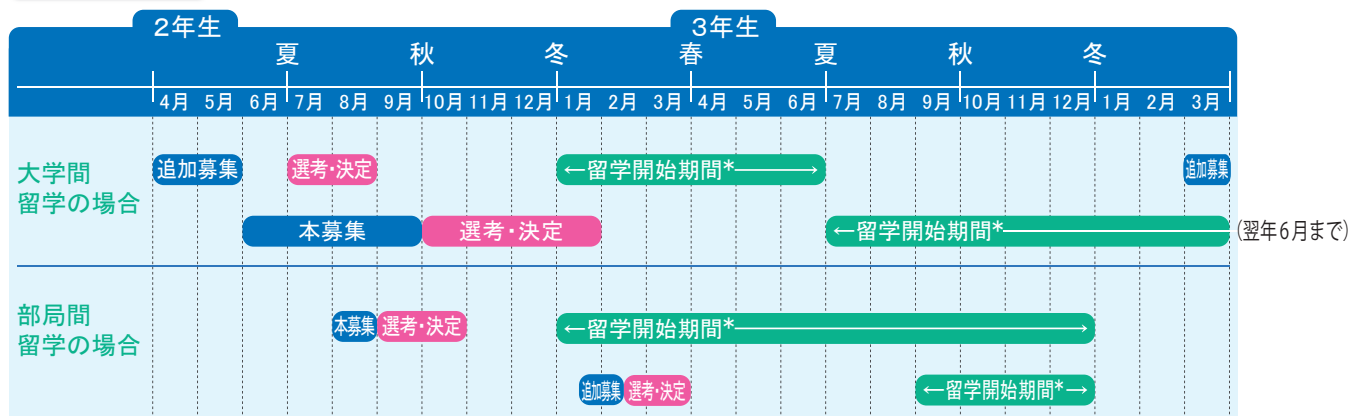
大阪大学では学部生・大学院生の海外留学を推奨しています。

このパンフレット掲載の情報は、[文学部のホームページ](#)でもご確認いただけます。

文学部 HP » 国際交流 » 広報・記録 <https://www.let.osaka-u.ac.jp/ja/international>



### タイムライン



\*留学開始時期は受入大学の学期開始時期による

## A. 留学情報 役に立つ説明会が実施されています

- ★「海外留学オリエンテーション」(国際学生交流課主催) 4月末に開催。  
語学研修、国際交流科目などについての説明があります。
- ★「大学間交換留学オリエンテーション」(国際学生交流課主催) 6月から7月にかけて開催。  
交換留学(大学派遣)についての説明があります。
- ★「人文学研究科(旧文学研究科)・文学部 留学説明会」5月開催。  
人文学研究科(旧文学研究科)・文学部の交換留学、語学研修の体験談、留学の応募から出発前の準備の様子などを紹介します。  
☆パンフレット「海外留学にチャレンジしてみよう！」 阪大生のための「海外留学ガイドブック」  
[https://www.osaka-u.ac.jp/ja/international/outbound/ex\\_students.html](https://www.osaka-u.ac.jp/ja/international/outbound/ex_students.html)

## 留学の種類と語学研修

- ★短期英語研修 [数週間程度] 夏休みや春休みに英語研修が実施されています。

プログラム名	募集時期 (2025 年度情報)*	実施時期 (2025 年度情報)*
ハワイ大学マノア校 夏季語学研修プログラム*	4月上旬～5月上旬	8月中旬～9月中旬 (5週間)
ハワイ大学マノア校 春季語学研修プログラム*	10月中旬～11月中旬	2月下旬～3月下旬 (5週間)
エンデランカレッジ夏季 語学研修プログラム* (オンライン)	4月上旬～5月上旬	8月中旬～9月上旬 (3週間)
エンデランカレッジ春季 語学研修プログラム* (オンライン)	10月中旬～11月中旬	2月下旬～3月上旬 (3週間)
ブルネイ キャリア アドバンス英語プログラム	4月上旬～5月上旬	9月中旬～下旬 (2週間)
フィリピン キャリア アドバンス英語プログラム	10月上旬～11月中旬	3月上旬～中旬 (3週間)

\*「国際交流科目」として単位修得できるプログラム ☆募集情報は大阪大学のHP、KOAN でご確認ください。

※ 最新の情報は大学HPを参照、[https://www.osaka-u.ac.jp/ja/international/outbound/ex\\_students.html](https://www.osaka-u.ac.jp/ja/international/outbound/ex_students.html)

- ★交換留学 交流協定校へ1学期以上、1年未満の期間での留学

- ✓ 交換留学制度を利用する場合、大阪大学を休学することはできません。「留学」という身分になります。
- ✓ 留学中は大阪大学の学費を本学に納入します。多くの場合、留学先大学へ授業料を支払う必要はありません。
- ✓ 留学先で取得した単位は、所定の手続きを経て大阪大学で取得した単位として認められることがあります。
- ✓ 応募するには TOEFL iBT79 又は IELTS (アカデミック・モジュール) 6.0 以上の英語力が必須です (英語で勉学・研究する場合)。語学基準は留学先大学によって異なります。

◆人文学研究科(旧文学研究科)・文学部の学生が海外留学のために利用できる交流協定には下記の2種類があります。

### 1. 交換留学(部局間協定) 人文学研究科(旧文学研究科)・文学部は以下の大学と学生交流協定を結んでいます。

- ★ マークが付いている協定校の場合、教務係へ応募願書を提出する前に国際連携室へ要相談!

イギリス	イーストアングリア大学	
イタリア	ウーディネ大学	法学部
ポーランド	ヤギェロン大学	国際政策学部
スウェーデン	ウプサラ大学(*修士・博士前期のみ)	神学部
チェコ	パラツキー大学	文学部
	プラハ・カレル大学*	文学部
ドイツ	ハイデルベルク大学	日本学研究所
	ゲッティンゲン大学	社会科学部
フランス	パリ・シテ大学*	
中国	上海戯劇学院 *院生のみ	
	西北大学	文化遺産学院
韓国	韓国芸術総合学校	演劇院
台湾	国立台湾師範大学	文学院
		国際与社会科学学院

交換留学（部局間）の募集・選考予定は以下の通りです。

募集	8月（本募集）	12月～1月（追加募集）*
選考	9月上旬	2月
留学開始	翌年1月～12月	9月～12月

\* 大学によっては募集枠のない場合があります。

## 2. 交換留学（大学間協定）

大阪大学は世界各地の約138大学と交流協定を結んでいます。（2025年12月1日現在）  
大学HP参照 <https://www.osaka-u.ac.jp/ja/international/action/exchange>（）

募集締切	3～5月頃（追加募集）	9月頃（本募集）
学内選考・面接	7～8月	10～11月
学内選考結果通知	8月頃	12月下旬頃
留学開始	翌年1月～6月	翌年7月～翌々年6月

※スケジュールは変更される可能性があります。

[https://www.osaka-u.ac.jp/ja/international/outbound/ex\\_students.html](https://www.osaka-u.ac.jp/ja/international/outbound/ex_students.html)

## B. 奨学金情報（2025年度実績）

（奨学金の募集条件等は変更される可能性があります。2026年度に募集される奨学金情報は、順次、大学のホームページ、KOAN等で案内されます。）

大阪大学HP » 国際交流・留学 » 大阪大学から海外留学したい方 » 留学助成制度  
<https://www.osaka-u.ac.jp/ja/international/outbound/scholarship>

### 1. 独立行政法人日本学生支援機構（JASSO）実施の奨学金

給付型・・・応募要件等を確認のうえ、人文学研究科（旧文学研究科）・文学部教務係に応募書類を提出してください。

協定派遣	学部・大学院の正規生（外国人留学生を除く） 3ヶ月以上12ヶ月以内の交換留学	月額12・11・9・8万円 月額支給額は地域により異なる
大学院学位 取得型	以下の全てを満たす者（外国人留学生を除く） ①申請時に本学学部・大学院に在学する正規生 又は最終学位を本学正規課程で取得した者 ②JASSOが定める「応募者の要件」を満たす者	月額154,000円～356,000円 （地域により異なる） 授業料（支給なし（予定））

詳細はホームページ（<https://ryugaku.jasso.go.jp/scholarship/>）をご覧ください。

※大学院学位取得型につきましては、2025年度募集以降、本学では「大学取りまとめ応募」を行いません。応募者は、「個人応募」により手続きを進めるようご留意ください。

※このほかにJASSOに採択された年のみ、部局（人文学研究科と文学部）の学生・院生のみ対象の協定派遣（給付型）もあります。

### 2. 大阪大学の奨学金 未来基金グローバル化推進事業

応募要件等を確認のうえ、人文学研究科（旧文学研究科）・文学部教務係に応募書類を提出してください。

交換留学奨学金 （派遣）	学部・博士前期課程の正規生 交換留学（3か月以上1年未満）	月額6万円
-----------------	----------------------------------	-------

※ 募集の有無や、内容は年度によって異なる場合があります。大学のHPや、KOAN 掲示を必ず確認してください。

### 3. 文学部の奨学金 教育ゆめ基金

交換留学する**文学部学生**を対象とした奨学金です。1年に2回（6月と1月）募集します。

文学部HP » 国際交流 » 海外留学・研修 » 交換留学（部局間）について » 「4. 教育ゆめ基金」  
<https://www.let.osaka-u.ac.jp/ja/international/exchange/inter-faculty>

### 4. その他の奨学金

※日本学生支援機構「海外留学の奨学金」[https://ryugaku.jasso.go.jp/scholarship/scholarship\\_other/](https://ryugaku.jasso.go.jp/scholarship/scholarship_other/)

※「官民協働海外留学支援制度～トビタテ！留学JAPAN新・日本代表プログラム～」

対象：学部・大学院に在籍する正規生 28日以上1年以内（3か月以上推奨）留学する者

支給額：月額6～16万円（経済状況や留学先地域による）※支援額は変更する場合があります。

## C. 外国語による授業

[https://www.osaka-u.ac.jp/ja/international/inbound/exchange\\_program/eng\\_course](https://www.osaka-u.ac.jp/ja/international/inbound/exchange_program/eng_course) (英語開講授業リスト)

1. 全学共通教育科目の外国語による授業
2. 国際交流科目 全学の先生方が、その専門に応じて英語による講義を提供しています。
3. 外国語による発信力を育成するための科目  
“Basic Academic Skills for Humanities” “Introduction to Contemporary Japanese Studies” などの外国語によるアカデミックスキルを育成する授業を開講しています。
4. エラスムス・ムンドゥス英語授業 "Contemporary Japan in the Global Context"  
10月から12月に開講されます。(修士課程以上)

## D. 語学能力について

英語の場合 各大学の必要要件を調べましょう。セクションごとに足切り点がある場合もあります。

- ・ TOEFL アメリカやカナダなど北米の大学に応募する場合一般的に用いられます。試験はコンピューターで4技能(リスニング、リーディング、ライティング、スピーキング)を測定する試験です。
- ・ IELTS イギリスやヨーロッパ、オセアニア、アジア圏などで一般的に用いられます。特にイギリスの場合は、IELTS UKVIの指定がある場合もあるので確認しましょう。また、学生ビザ申請のための足切り点もあります。筆記試験と、スピーキングの面接があります。

**国際連携室に試験対策用の参考書がありますのでご利用ください。貸し出しもできます。**

英語以外の外国語の場合

当該外国語の語学能力試験のスコアの提出、もしくは大阪大学で行われている当該ネイティブ講師による語学能力を証明する文書の提出によって判断します。大学間では、交換留学応募時に公式の語学能力証明書を求められることがあります。

## E. 外国語（英語）能力向上への支援

文学部・人文学研究科でグローバル人材育成の目的で、言語能力及び国際的な場で発言できる訓練のために以下のようなプログラムを提供しています。

### 1) 国際セミナーの開催及び論集の刊行

文学部・人文学研究科で学ぶ学生が国際的な場で自信を持って英語で発言し、議論を行うための訓練の場として、国際セミナーを開催しています。このセミナーでは、当学部・研究科の日本人学生や留学生だけではなく、海外の大学の学生や教育者も参加できるようにし、口頭発表のみならず、質疑応答・教育研究者コメント等も英語で行います。また、海外からの参加者と自由に意見交換や議論が行える環境を提供します。発表者全員に発表内容を英語で論文化してもらい、セミナー開催の詳細報告と合わせた論集 (ISBNも付与) を刊行しています。

文学部・人文学研究科の学生の口頭発表の準備にあたって、国際連携室では英語の発表方法等について指導・助言、また、英文校正のための特別支援も実施しています。当セミナーは、文学部学生の海外の教育研究者・学生との交流だけではなく、語学研修への足がかりにもなります。

<https://www.let.osaka-u.ac.jp/ja/international/news>

### 2) グローバル人文学推進のための英語集中講座

「教育研究の国際的通用性・国際的発信力」(向上)を実現するため、学部生・大学院生を対象とした英語集中講座 (IELTS等)を実施しています。学外からネイティブの講師 (ブリティッシュ・カウンシルなどから) を招き、授業をしてもらいます。受講料はかかりません。

<https://www.let.osaka-u.ac.jp/ja/international/exchange/academicwriting>

### 3) 英語能力判定試験 (IELTS、TOEFL) 受験料補助

2023年度から開始した制度です。文学部・人文学研究科(人文学専攻・日本学専攻基盤日本学コース・芸術学専攻)の正規課程の学生の留学準備への支援として、英語能力判定試験 (IELTS、TOEFL) の受験料を一部補助しています。

## ★正規留学 学位取得を目指し、国外の大学や研究機関へ留学

### ▼エラスムス・ムンドゥス修士課程への留学 ユーロカルチャープログラム奨学生への推薦

EUが運営するErasmus Mundusプログラムのひとつに、ユーロカルチャー (Euroculture) があります。豊富なカリキュラムを通じ、現代ヨーロッパの文化・社会・政治についてEU圏内の大学で多角的に学べるプログラムです。

大阪大学人文学研究科は同プログラムのパートナー校として、大阪大学の卒業生と大学院生の中から毎年若干名を推薦しています。2年間、EU圏内の以下の7大学のうち2校へ留学でき、修了後はその2校から修士号が得られます。詳細は[文学部の関連ページ](#)(HP » [国際交流](#) » Erasmus Mundus)をご覧ください。コンソーシアム参加校：グローニンゲン大学 (オランダ)、ゲッティンゲン大学 (ドイツ)、ウプサラ大学 (スウェーデン) ヤゲロニアン大学 (ポーランド)、パラツキー大学 (チェコ)、ウーディネ大学 (イタリア)、ストラスブール大学 (フランス)

毎年10月に説明会を実施していますので興味のある方はご参加下さい。

11月に学内選考を行い奨学生候補を選出しています。



## 留学体験記

### カナダ、トロントでの留学生活

美術史学専修 学部4年生 澄川温喜  
カナダ トロント大学 (大学間派遣、派遣時学部4年生)

留学に行く前、自分は研究テーマを絞りきれず、興味関心が移っていた。また、当時興味があった北米先住民の物質文化は日本で専門的に学べず、今後は院進したいと思う一方で、本当にやりたいことは何なのか決めきれずにいた。

そのため、留学中は留学先でしか学べない内容や、専門外の授業を幅広く履修した。若手のゲスト講師による講演や実践的なチュートリアルを通して、最新の研究動向や、実際に学問をすることはどういうことか理解できた。また、出会う学生のなかには副専攻をもち、美術史と天文学を専攻する人もいた。学問分野の垣根を超えた研究も盛んで、改めて色々な可能性や選択肢が広がっていることを感じられた。

北米先住民研究の分野では、実際に先住民の暮らす場で過ごし、学ぶことで初めて分かることが多かった。植民地時代寄宿学校制度の過ちを忘れな

いたための催しや和解のためのスピーチ、先住民の教員が行う講義やシンポジウムに参加し、単なる研究対象ではなく、一体となった協力型の研究、先住民社会に貢献する研究へ方向性がシフトしている様を実感できた。特に、講演中に涙を流す先住民の方々の姿は印象的で、記憶に残っている。寄宿学校で亡



寮のロビーにて

くなった子供達の遺骨を探す協力型の先住民考古学や、研究を行う上での倫理的側面に関わる講義も参考になった。そのほか、休日はアートギャラリーや博物館に足を運び、先住民芸術の実物にふれることができた。

この留学を通して、自分のやりたいことがより明確になり、海外の院でさらに学びたいという目標が

できた。また、多文化・多民族のトロントという街や寮での共同生活、長期休みにバックパックで旅した南米での経験は、自分の今までの常識や価値観を崩し、日本を外から俯瞰してみる機会にもなった。そして、行き詰まった時には環境を変えてみるこの大切さを学んだ。今留学を考えている人たちは、ぜひ挑戦してみしてほしい。

## ゲッティンゲン大学での留学生活

ドイツ文学専修 学部4年生 早坂美優  
ドイツ ゲッティンゲン大学 (部局間派遣、派遣時学部3年生)

ゲッティンゲンはニーダーザクセン州にある大学町で、古い街並みと落ち着いた雰囲気、豊かな自然に囲まれている。ドイツの中央付近に位置し、交通の便も良く、気軽に周辺都市へ出かけることができた。

学期中は興味のある講義を単位を気にせず聴講することができ、その中から単位を取れそうだと思う授業だけを選択し、レポートやテストを受けた。学生は授業への参加意欲が高く、講義形式の授業でも多くの質問が飛び交い、活発に議論していた。その様子は、日本の大学とは少し違った雰囲気であると感じた。長期休暇の期間には語学コースが開講されており、授業を受け切りテストに合格すれば、ひとつ上のドイツ語レベルを十分に習得できる。語学コースではガイド付きの遠足や料理教室の体験もでき、他の留学生との交流の機会も設けられていた。

ビザの取得に予想以上に時間がかかってしまったため、留学中はドイツ国内での旅行が圧倒的に多くなった。Deutschlandticket という、地域鉄道であれば乗り放題になるチケットを活用し、いわゆる貧乏旅行を謳歌した。行き先を決めるうえで一番大事にしていた価値観は、自分が将来同じ場所に再び行くことができるかどうか、という点である。社会人になりお金を得ることができれば、海外旅行に行く機会は増えるだろう。しかし、時間的な制約を考えると、空港があったり大きな都市であったりしないと訪れることは難しいと考え、

行きにくい都市を優先して回った。

また、ドイツ国内のお祭りやイベントにも積極的に足を運び、食事やお酒、演劇を楽しんだ。中でも印象に残っているのは、ヴェルニゲローデで行われたヴァルプルギスの夜である。魔女に扮した人々が食事や音楽を楽しんでいる姿は迫力があり、当初はもっと伝統的で肅々とした行事を想像していたが、そういった雰囲気のみどころだけでなく、現代的なライブ会場のような場所もあり、良い意味で期待を裏切られた。



雑貨屋の前で魔女と手をつないだ。

ドイツ国外で最も印象に残ったのはデンマークである。デンマークのオーデンセでは、アンデルセンの生い立ちから作品まで、街中でさまざまな展示を見ることができた。街そのものが一つの大きな博物館のようであり、強く印象に残っている。

私はもともと旅行に行くタイプではなかったが、ドイツで過ごした一年間で旅行をした回数は、そ

れまでの人生と同じか、むしろそれ以上であったように思う。限られた期間で行き先を自分で選び、知らない土地に足を運ぶなかで、自分の価値観を見直し、予想外の出来事に少し強くなった気がする。この留学で得た得難い体験や思い出は、今後の私の自信を支えてくれるだろう。

## 多様性の中で生きる

美学専修 学部4年生 尾上依央奈

イギリス イーストアングリア大学 (部局間派遣、派遣時学部4年生)

私は2024年9月から、イーストアングリア大学(UEA)のあるノリッジで1年間の交換留学を経験した。自然に囲まれた街での生活は、私にとってコンフォートゾーンから離れるための挑戦だった。文化も人種も異なる環境の中で、最初は言葉以上に空気の違いに戸惑った。けれど、広大なキャンパスを歩きながら芝生を踏む時間が、知らない土地で生きる緊張を和らげてくれた。自然と人間の距離が近いこの大学で、自然に癒やされながら考える時間を持てたことは、想像以上の効果があった。

イギリスの多様性は、理想と現実の両面を見せてくれた。ノリッジのような小さな街でも、さまざまなバックグラウンドの人が行き交い、文化が共存しているように見える。一方で、イギリスでも旅先でも観光客反対のデモがしばしば起こり、UEAでは労働条件をめぐるストライキが一ヶ月以上続いた。授業が止まる不便さを感じながら、私は自分たちのために「声を上げる」という行為の重さを知った。多様性とはただ人を受け入れることではなく、摩擦や衝突を含めた社会の絶え間ない変化なのかもしれないと思った。

私が専攻していた美術史の授業もまた、多様な価値観の縮図だった。そもそも一般的に扱われている美術史というのは、西洋で形作られたもので、その再解釈が求められている。複雑な内容の講義において、英語に苦勞しながらも、自分の考えを拙くても言葉にすることで、初めて美術史の多様性をめぐる議論の輪に加わっていると感じた。そして完璧であ

るより、誠実に考えを共有することが大切だと学んだ。

帰国してから感じるのは、広がった興味と視点の変化だ。イギリスで見た「伝統と多様性のせめぎ合い」は、私の地元・京都の姿とも重なる。観光と生活、伝統と現代。どちらの都市も、矛盾を抱えながら文化を守り、人を受け入れようとしている。イギリスでの経験は、私にとって他を知る以上に、自分の文化を見直す契機となった。もどかしい思いもあるが、多様性を受け入れつつ、伝統をどう継ぐのか考え続けていきたい。



Spring Ball会場であるAssembly House前にて

## Between Research and Cultural Discovery : My Year at The University of Osaka

Cassan Sandra(カサン・サンドラ)

人文学研究科 特別聴講学生 交換留学生 (フランス パリ・シテ大学大学院)

My name is Cassan Sandra. After finishing the first year of my master's degree in France, I was selected by my university (Paris Cité University) to spend my second year studying at The University of Osaka.

This is actually my second experience as an exchange student in Japan (during the last year of my bachelor's degree, I spent one year at Kobe University). Coming back to Kansai region for a second time felt familiar, and it helped me adjust smoothly without too many surprises.

As a master degree exchange student at Graduate School of Humanities/School of Letters, most classes are taught in Japanese, so it is necessary to have a fairly high level to follow the courses. But the professors and students have all been very welcoming. But if you are not confident with your Japanese level there are also many classes available in English at the Center for Education in Liberal Arts and Sciences, which I appreciate since I want to improve my English skills as well.

As an exchange student (tokubetsu chōkōsei), I can only enroll in master's courses offered by my department (except those from the Japanese Linguistics program) and in courses provided by the Liberal Arts Center. I am required to take seven classes per semester.

In addition, I must take two classes each semester with my academic advisor from The University of Osaka. I am very glad I was told and able to take them, as they are extremely interesting, and the professor has been very welcoming and supportive.

Alongside my coursework, I am writing my master's thesis for my French university. The materials and resources offered by The University

of Osaka have been extremely helpful! The library provides almost everything I need for my research and it is conveniently located right next to the Faculty of Letters building.

Outside of my academic work, I am also doing my shūkatsu (job-hunting) in Japan. Being a student at The University of Osaka has been reassuring, not only because of the university's reputation, but also because the university offers a lot of support for international students going through the job-hunting process.

As for location, this is as I said previously, my second time living in Kansai, and I really feel that it is one of the best regions for discovering and going around Japan without taking hours to get out the city. Whether by train or by bus, it is easy to reach many places: Kobe, Kyoto, Nara, and even more rural areas are all within short distance. This makes it simple to explore both well-known cultural sites and quieter local spots.



Eikandō in Kyoto

編集・発行 人文学研究科・文学部 国際連携室  
橋本順光・モハンマド モインウッディン・中井 聡  
発行日 2026年3月31日

〒560-8532 豊中市待兼山町 1 - 5